

---

## 校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

---

### 大河内さんのご冥福をお祈りして

8月24日に本校が大変お世話になってきた大河内祥晴さんがご逝去されました。無念です。昨年度の7月3日を皮切りに3度、本校にご来校いただきました。先月の7月2日の「いじめについて考える日」には本校にお越しいただき、私たちの取組について励ましのお言葉をいただきました。その時にも、足取りがおぼつかなく、かなり体調が悪いご様子でした。

7月2日に生徒会の役員等と懇談の機会をもちました。そのとき、「ご体調がすぐれない中、精力的に多くの学校を訪問してお話していただいています。その原動力となるエネルギーはどこから湧き上がってくるのですか？」と伺ってみました。

その問いへの答えは明確でした。「恩返しです。これまで支えていただいた方々への感謝の思い」です。感謝、つまり「ありがとう」の気持ちです。

思い起こしてみますと、大河内さんは学校を訪問されると、講話の中ではもちろんのこと、ちょっとした機会をとらえて、わたしたちに多くの「ありがとう」という言葉がけをしてくださっていました。

私たちはお世話になった大河内さんの遺志を受け継いで、その願いを具現していかなければなりません。そのために、ありがとうと言える人、言ってもらえる人になりたいと思います。そして、ありがとうという言葉があふれる学校をめざしていきます。それが大河内さんの遺志に答えることであり、私たちがめざす「居場所と幸せを大切にす」校風を実現することにつながります。

コロナ禍の生活では、買い物に行くと人と密になるのが何となく不安。もしかしたら感染してしまうかも……。いや、自分が無症状感染者でうつしてしまっているかも……。なんとなく、カート押したくない、手すりに触れたくない。周りのことにこれほど敏感になったのは、人生ではじめてです。今まで普通に手にしていたもの、口にしていたものにも「これって大丈夫なのかな？」と、いちいち疑心暗鬼になる。会いたい人たちに会えない。いきたいところに行けない。やりたいことが思いっきりできない。今までできていたこと、当たり前になっていたことが、できなくなってしまった。私たちの思っていた「当たり前」は、実は「当たり前」なんかじゃなかった。一つ一つのことが実はとても価値のあることで、それに気づかず「当たり前」だと思って毎日過ごしていたんだ、と気づかされます。

この状況の中、私達はどんな事を大切にすべきでしょうか。大河内さんに教えていただいたように、私は、「当たり前」だと思っていることに「感謝する」ことが大切だと思います。当たり前だと思っていることは必ず誰かが私達を支えてくれる「おかげ」であり、身の回りの大切な人達の存在があるからこそ当たり前になっているのです。だから、私達はその人達に感謝の気持ちを忘れてはいけません。

「当たり前」の反対は「有難い」です。つまり、「当たり前じゃない」とは「有難い」ということです。コロナ禍だからこそ「ありがとう」という言葉を素直に口にして、伝え合いたいですね。

大河内祥晴さん、今頃天国の清輝君と積もる話をしているのかなあ……。

ありがとうございました。大河内祥晴さん。安らかに憩われますよう心よりお祈り致します。